

10の約束

着実に実現 しています!

都民ファーストの会東京都議団
予算要望

こども1 不妊治療をさらに充実

安心して不妊治療に取り組めるよう、医療保険対象外の先進医療のみとしていた助成対象を拡大し、新たに、医療保険対象である体外受精及び顕微授精を含めた自己負担額全体への助成を実施します。



対象:(保険対象)生殖補助医療にかかる費用

助成金額:上限15万円

対象:(保険対象外)先進医療にかかる費用

開始時期:令和8年10月を予定



こども2 都立高校生を海外へ

都立高校生10万人に対し海外交流は約400件と少なく、国際人材育成が課題でした。都は来年度から海外留学支援事業を拡充し、3週間留学を新設、支援規模も倍増します。若者の海外経験を広げ、国際都市東京の競争力を高めます。



酷暑 エアコンなど 購入費の補助を拡充

熱中症リスクの高い都内在住の65歳以上の高齢者と障害のある方のエアコン購入や、エアコンの長期使用の買替等を促進するため、東京ゼロエミポイントの付与による支援を令和8年度末まで実施します。

対象:高齢者・障がいのある方

付与ポイント:80,000ポイント

インクルーシブ 障がい者の居場所



障がい児者は18歳を境に支援が急減し、日中・夕方の居場所不足から保護者の負担が増す「18歳の壁」が課題です。来年度、都は区市町村障がい者の居場所づくり促進事業を立ち上げ、15時以降の居場所整備を進めます。

医療 経営難の病院を支援

厚労省の調査によると、国内の7割の病院が赤字です。人手不足、物価高騰、診療報酬の改定、コロナ禍後の稼働率の回復遅れ、不採算部門の維持などが原因と言われます。本来、国の責任で補助するべきですが、都民の生命を守るために、都の補助を拡充します。



シニア 認知症と向き合う

高齢者の6人に1人が認知症となる中、入院を4割が断られる課題があります。都は来年度、「TOKYOオレンジ医療システム」を導入し、二次保健医療圏ごとに地域拠点型認知症患者医療センターを軸とした病院連携で安心の受入体制を整備します。



防災 避難所のトイレ増設

大規模災害時の避難生活の生活の質は大きな課題です。都は昨年3月「避難所運営指針」を発表し、雑魚寝の解消、食事・トイレの提供、ペット同伴避難を進めています。来年度は、トイレの確保のための予算を増額しています。



公共交通 地域の移動手段を守ろう

都営バスでは令和7年10月に、運転手不足を背景として19路線・206便の減便が行われました。公共交通を支える人材の確保が課題で、来年度は東京都として運転士1人あたり年12万円を支援する方向性が示されました。

子ども3 小1の壁

「朝の小学生の居場所作り」や放課後の時間を改革する「認証学童クラブ制度」による運営費等の経費を補助しています。さらに学童クラブ職員の人材確保・定着に向けて、処遇改善などにも取り組みます。



おぎの 稔 (東京都議会議員 大田区選出)

〒146-0093 東京都大田区矢口2-11-26-北嶋ビル1F
TEL 090-9045-1941 e-mail info@ogino.link

都政・都議会についての
ご意見・ご要望をお聞かせください